

## <レビー小体型認知症の特徴とは>

進行性の認知症の一種で、認知症症状に加えてパーキンソン症候群の症状を示す病気です。脳の細胞に「**アルファ・シヌクレイン**」というたんぱく質ができることが原因と考えられており、このように異常たんぱく質の蓄積が病気の原因となる病気は、まとめて「**プロテインパチー(たんぱく質症)**」と呼ばれることもあります。

## DLB を特徴付ける 4 つの中核症状と対応

### 中核症状

1. 認知機能の変動…**84%**  
良い時、悪い時と状態が変わる  
変動の間隔は、数時間・数日・数か月など様々
2. 幻視…**65~80%**  
ないものが見える  
人それぞれ見えるものは異なる
3. レム睡眠行動障害…睡眠障害 **40~50%**  
睡眠中の大声や行動
4. パーキンソニズム…**25~50%**  
姿勢や動きに支障が出る

### 対応

1. 本人も混乱して苦しんでいることを踏まえて寄り添い話を聴く  
調子が良い時に本人の思いや困難を聴き出す
2. 幻視が見えている恐怖・不安、思いを知る  
幻視の認識・理解
3. 入眠中に体動が激しい時は、周囲に物を置かないようにする
4. 転倒や飲食時の誤嚥に注意

## DLBの人は転倒しやすい・予防することが難しい

- 転倒を起こしやすくなる要因
  - ・起立性低血圧
  - ・注意力低下や精神症状
  - ・日機能変動…注意や集中力の低下

転倒リスクはアルツハイマー型の**10倍**という報告もある

## 症例紹介② <ちびちゃん>という犬の幻視が見えるおばあさん

- 桜の花びらを茶色で塗っている(視覚認知機能障害)
- 3ヵ月後、再度訪問したら「OOさん」と声をかけられた⇒記憶障害は目立たないことが多い

### 病気の視点からみた DLB の支援のポイント

- 病気の特徴(全身病・特徴的な症状)を知る
- 認知機能障害の内容と程度、身体機能障害の内容と程度を把握する
- 状態が変動するので、認知・身体機能障害について、普段の状態(良い時)と今を比較して捉える



「その人の特性をつかむ」  
状態の変化や病気の進行を捉え必要なケアを予測  
その時々や状態によってケアを変える必要がある

幻視が見える → シンプルな部屋にする  
視覚認知機能障害 → 空間認知の障害 (⊕)

**見方が変わると ケア が変わる — 相手が変わる**